

職域の保健師等が「横のつながり」を持つ 貴重な機会となる研究会

一般財団法人 地方公務員安全衛生推進協会 企画課

職域担当看護職研究会は、地方公共団体において職員の健康管理を担当している保健師・看護師等が、職務上の課題解決や情報交流および意見交換を行う研究会です。

職域担当看護職研究会は、東京都特別区の保健師による自主的な勉強会として始まり、平成5年度からは当協会が事務局となっており、協会の事業として実施してきました。

研究会は関東地区、関西地区の2つに分かれ、それぞれの地区の職域保健師が幹事として企画等を行っています。各地区においてそれぞれ前期、後期の年2回ずつ開催しており、職務上の諸問題をテーマとして、専門家による講演やグループ討議を行い、解決策等の研究、討議、情報交換を行っています。

講演

研究会のテーマに合わせ、その分野の最先端で活躍されている有識者等を講師に迎えています。

事例発表

研究会のテーマについて、先進的な取組を行っている団体の事例発表を行っています。

グループ討議

それぞれの団体が抱えている課題を解決するため、情報や意見を交換します。これにより参加者同士が「横のつながり」を持つ貴重な機会となっています。

以下、30年度の研究会の様子をご紹介します。

関東地区・前期

職場における感染症対策

30年7月31日（火）に東京都千代田区内で開催された関東地区の前期研究会には、全国から63名の保健師・看護師等の参加がありました。

幹事より、「感染症はいつ発生するか分からないもので、職員が感染した場合には私たち職域の保健師等が動かなければいけない。起こってから考えるというのでは遅すぎるため、感染症対策に関して危機感を持って事務方も含めて考えていく必要があるのではないか」と、今回のテーマを選定した理由について、説明がありました。

東京医科大学病院渡航者医療センター教授の濱田篤郎先生から、職場の感染症対策について、講演いただき、職場内における二次感染の拡大を防止すること、感染症に罹患した職員の健康管理および感染症による行政サービスの低下を防ぐ対応などの講義があり、また、季節性インフルエンザやノロウイルス、結核など職員への感染が懸念される感染症について、個人でできる対策から職場



濱田講師

で行う対応についての解説もありました。また、厚生労働省健康局結核感染症課主査の吉井史歩先生からは風しんおよび麻しんについて、症状等の概要や発生件数の推移などの説明だけでなく、定期予防接種実施率向上に向けた対策の強化や広域感染発生時の対応の強化など麻しん・風しん指針の今後の改正の方向性についても情報提供いただきました。

グループ討議では、感染症対策に関してそれぞれの職場で抱える問題、課題について、グループ内で情報共有し、解決に向けての方策等について、検討しました。その後、各グループの代表者が発表を行い、研究会全体で情報共有を図りました。参加者からは「意見交換を通じて各団体の取組を知ることができたので、それを参考に今後の対策について検討したい」「すべての職員への対策を考えていたが、ターゲットを

絞って実施するなど新しい視点を得ることが出来た」「感染症の危機管理について、認識不足だったと感じた」などの感想がありました。

関東地区・後期

**ストレスチェック3年間の評価と今後の対応について
職場環境改善に
結びつけていくために**

31年1月28日(月)に東京都千代田区内で開催された関東地区の後期研究会には、全国から88名の保健師・看護師等の参加がありました。

幹事より、「ストレスチェックの実施は3年目を迎え、多くの地方公共団体において工夫した運用がなされているところだが、集団分析結果を活用した職場環境改善については、なかなか進まないという声も聞いている。本日の研究会では、これまでのストレスチェックを振り返り、集団分析の活用のための考え方や職場環境改善への活かし方について考えていきたい」と、今回のテーマを選定した理由について説明がありました。

ストレスチェックと職場環境改善



吉川講師と研究会風景



について、日本赤十字看護大学地域看護学准教授の吉川悦子先生から講演いただき、職場環境改善が心理的ストレス反応に良い影響を及ぼし、こころの健康づくりに役立つことや、高ストレス職場にどう介入し、対策指向の話し合いに持っていくかなどについて、わかりやすい資料と

ともに説明がありました。また、職場環境改善の取組事例として、高知県などで実施されている職場ドックの手法などについても紹介いただきました。

グループ討議では、研究会幹事3名からそれぞれの団体での取組事例の発表があったのち、ストレスチェック・職場環境改善に関してそれぞれの職場で抱える問題、課題について、グループ内で検討しました。グループ討議の発表では、「高ストレス者へのフォローの状況や関わり方にそれぞれの団体の特徴があった」「どの団体も少ない人数で対応しているのは同じだと感じた」と、ストレスチェックの実施方法や、普段の業務で感じていることなど、また、「研修会を実施してから、メンタルやストレスの状況がどうなったかなどの経年的な変化を見る必要がある」「職員を集めての研修だけではなく、各職場へ出向いての説明を行うことも大切ではないか」など、職場のメンタルヘルス向上のためのストレスチェックの活用方法についての意見が出ました。

研究会幹事より 1年間を振り返って 【関東地区/西東京市・松井幹事】

1年間、幹事として関わらせていただきました。職域担当としては経験が浅く、他の幹事の方に頼りきりでしたが、幹事会でのテーマ決めから大変勉強になり、よい経験となりました。職域担当の看護職は1人か2人体制のところが多く、悩みや不安を共有できないつらさを抱えている人は少なくないと思います。研究会では、そういった悩みを共有できる場として、また新たな知識・情報収集の場として、元気とアイデアをもらいました。

共有したい、学びたいテーマはたくさんあります。来年度の研究会も楽しみです。



関東地区幹事 (左から西東京市松井幹事、目黒区田中幹事、足立区永宮幹事)

関西地区・前期

発達障害及び

パーソナリティ障害をベースに

職場不応となつて

職員への対応

産業看護職としてできる
具体的な支援

30年7月25日(水)に大阪市内で開催された関西地区の前期研究会には、全国から74名の保健師・看護師等が集まりました。

はじめに、幹事より、「発達障害については、詳しく学びたいという意見が多く、発達障害と診断されていない場合には、どう対応したらよいか、また、人事と協力してどんなことができるかなど具体的なことを話し合える機会を持てたらと考え」と、今回のテーマを選定した理由について説明がありました。

午前の部では、2つの自治体から事例発表をしていただき、グループに分かれ、課題や今後の対応について討議を行いました。

午後の部では、福島学院大学副学長の星野仁彦先生より、発達障害の職員への対応について講演いただき、ADHDやアスペルガー症候群

に見られやすい特徴、薬物治療等や職場での対応として本人の話を最後まで聞くことや相談体制を確立させることなどについて、詳しい説明がありました。

講演後には、改めてグループ討議を行い、その結果をグループごとに発表しました。「どう受診につなげていくかが課題だと感じた。そのた



星野講師と研究会風景

めにも本人との信頼関係が重要になる」「診断を受けることがゴールではなく、その後の支援体制の構築も考えていかなければならない」などの発表がありました。最後にグループ討議の発表を受けて、星野先生から、「発達障害に対応するときは、本人、家族、産業保健スタッフ、職場といった関係者の情報共有と本人との信頼関係が大切で、職場からの説明には家族にも同席してもらったり、職場と健康管理スタッフの考え方をすり合わせ、協力して対応していくことが重要である」などの講評がありました。

関西地区・後期

復職成功率を確実に上げる

メンタル対応

担当者の負担軽減

31年2月18日(月)に大阪市内で開催された関西地区の後期研究会には、全国から85名の保健師・看護師等が集まりました。

幹事より、「メンタルヘルス不調による休職者が年々増加していること、復職しても業務内容等の配慮が継続し続けていることや再休職に

なってしまう職員が少なくないことから、上司や周囲の職員の疲弊につながるという点ほどの職場でも共通しているのではないかと考え、職場復帰支援を成功させ、職場の負担軽減につながる方法を学んでいきたい」と今回のテーマを選定した理由について説明がありました。

午前の部では、2つの自治体から事例発表をしていただき、グループに分かれ、課題や今後の対応について討議を行いました。

午後の部では、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科講師の高尾総司先生より、復職支援を含めたメンタルヘルス対応についての講演をいただきました。復職は、疾病の状態ではなく、通常勤務ができるかどうかで判断を行い、通常勤務に支障があるならば休業を命じる必要性について、職場として共通の認識を持ち、一貫した対応を取ることが、本人に



高尾講師

研究会幹事より

1年間を振り返って

【関西地区／箕面市・勝川幹事】

最新の知識の習得だけではなく、グループ討議を通してさらに深めあい、その後も相談しあえる横連携を構築できる貴重な機会となっている本研究会。互いに職域看護の質を向上させていこうという意識が参加者にあり、いつも活発な討議、情報交換がされていると実感しています。

毎回参加する度に多くの刺激を受け、次なる活力を得られる本研究会が、今後も互いに向上発展できる場であることを願います。



関西地区幹事（左から箕面市勝川幹事、大阪市瀧川幹事、豊中市徳山幹事）

とつても職場にとつても良い結果につながるとの説明がありました。また、週1回の状況報告のための療養・復帰準備状況報告書や、復帰可否を判断するための復帰準備完了確認シートなど具体的なツールを用いた職場復帰までの流れについても説明がありました。

講演後には、改めてグループ討議を行い、その結果をグループごとに発表しました。「本人と職場で面談を行い、意識のすり合わせを行い、認識のずれをなくす」「家族からの復帰判断という目線もあっていいのではないか」などの発表がありました。

最後にグループ討議の発表を受けて、高尾先生から、「対応にあたっては、ドライに接する立場と、寄り添う立場を別々の職員が担当するのは非常に効果的である」などの講評がありました。

おわりに

研究会には、全国各地からさまざまな職場、そして警察、消防局、教育委員会などの健康管理担当者の方々が参加しています。

最近では、経験年数が1年目の方、行政職の方が参加するなど、研究会の認知度が高まっており、発達

障害やストレスチェックといった業務上の課題などそれぞれのテーマについて、最新の知見を得るだけでなく、研究会の参加者から、「他自治体と情報交換できてよかった」といった感想を多数いただいております。貴重な情報交換の場にもなっております。

当研究会開催にあたり、研究会の幹事には、テーマの選定や当日のスケジュールの作成等だけではなく、当日の進行等にご尽力いただきました。幹事の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

31年度も7月ごろに前期、32年2月頃に後期の研究会を関東地区、関西地区それぞれで予定しております。今後とも、協会と幹事で力を合わせて職員の健康管理にとつて有意義な研究会を開催していきますので、より多くの職域担当看護職の方々のご参加をお待ちしております。

職域担当看護職研究会ホームページ
<http://www.jalsha.or.jp/schd/schd06>

平成29年度	前期	関東地区	ストレスチェック制度2年目を迎えて～実施1年目を終えて見えてきた今後の課題～
	前期	関西地区	職場環境改善を効果的に進めるために
平成28年度	後期	関東地区	職場のメンタルヘルス困難事例について考える～発達障害やパーソナリティ障害の職員とうまく適応できるように～
	後期	関西地区	職場不適応者への対応について～発達障害の背景にあるもの～発達障害やパーソナリティ障害の理解と支援
平成27年度	前期	関東地区	職場のがん対策と職場支援
	前期	関西地区	職員の生活習慣病（メンタル・身体の両面から）重症化予防を考える～今、注目されているアルコールによる健康障害の早期介入の実践方法を学ぶ～
平成27年度	後期	関東地区	ストレスチェック制度を活用した職場環境改善と継続実施に向けて今後の課題とその対応
	後期	関西地区	ストレスチェック実施後の課題～職場環境改善の具体的な方策について～
平成27年度	前期	関東地区	健康診断の事後指導を有効に行うためには～データヘルスの考え方を利用して～
	前期	関西地区	ストレスチェック制度とその先にあるもの
	後期	関東地区	ストレスチェックの結果を活かすために
	後期	関西地区	ストレスチェック制度とその先にあるもの

資料 職域担当看護職研究会 研究テーマ